

〈実践報告〉

## リーディング教材を用いた英語プレゼンテーション授業の実践報告

銅堂 恵美子

### 要旨

本稿は、2014年度後期に大学1年生を対象とした必修英語科目における、リーディング教材を用いた英語プレゼンテーション活動について報告するものである。近年、英語プレゼンテーション教育に対する社会的ニーズは高まるばかりであるが、未だ発展段階の分野であり、更なる研究や実践報告を必要としている。本稿は、発信型（output）英語教育の一環としての英語プレゼンテーション授業の実践報告を基に、今後期待される実践的な英語プレゼンテーション教育のあり方について考察する。

### 1. はじめに

2007年、TOEICにおいてスピーキングやライティングといった発信能力評価の実施が始まったように、現在の国際社会において、英語を読んだり聞いたりして理解する能力だけでなく、英語で発信する事が出来る人材育成に期待が高まっている。仁科（2012）も指摘するように、英語をはじめとする外国語教育業界では、従来の受信型（input）教育から発信型（output）教育への移行期にさしかかっており、近年多くの大学が英語カリキュラムの改革を行いつつある。そしてこのような流れの中で、相当数の大学が英語プレゼンテーションの授業に取り組み始めている（藤田、山形 & 竹中，2009）。

しかしながら発信型（output）英語能力の強化が語学教育において重視されるようになった歴史が浅い事と同様に、プレゼンテーションを導入した英語授業の実践においても比較的歴史が浅く、今後さらなる研究が必要な分野である事が指摘されている（田村，細田，星，野村，2014）。上田（1998）など、これまでの先攻研究によって大学における英語プレゼンテーション教育が、思考力の育成やコミュニケーション能力の向上に貢献できる可能性は指摘されているが、それが実際に実行されているという事例報告は少なく（田村，細田，星，野村，2014, p. 45）、またプレゼンテーションに特化した教材の数も「散見できる程度」である（仁科，2013, p.98）。

前述した内容から、英語プレゼンテーション教育の分野は発展段階であり、「最適な」指導法の確立が模索されている状況である事がわかる。本稿では、その試みの一つとして、リーディング教材を使用した英語プレゼンテーション授業の実践報告を基に、目指すべき大学英語プレゼンテーション教育について考察する。

### 2. プレゼンテーション授業の実践

#### 2.1. 当該授業の概要

当該授業は、西日本の私立大学1年生を対象とした必修英語の授業で、プレイスメント

テストによる習熟度別における上位者を対象としたクラスである。実施校のカリキュラム上の指定により、リーディング教材を用いたプレゼンテーション活動を含めた授業として実施された。本講義の受講者は法学部国際関係法の1年生32名で、授業回数は毎週1コマ(90分)であった。本講義は *Burning Issues – Advanced Level* (株式会社 松柏社) を使用した。このテキストは代理母、冤罪、ギャンブル、結婚、不法入国者、ジェンダー、文化拡張主義政策などの現代社会や人間という存在に関して深く考えさせられるテーマについて、各章異なる立場から書かれた2種類の英文を設け、練習問題と本文のテーマに関する英語の質問を扱ったテキストである。文章を批判的に読むと同時に複眼的に思考することを促す当テキストを用い、学生は興味のあるテーマを選択し、各グループ8名程度でのプレゼンテーション活動を行った。プレゼンテーションの経験がないという学生が大半であったため、日本語と英語でのプレゼンテーションを各グループが1回ずつ行えるように計画した。日本語でのプレゼンテーションを経験した上で段階的に英語プレゼンテーションに移行することで、学生の不安を軽減し、日本語プレゼンテーションでの失敗や反省を英語プレゼンテーションに活かす事が出来るように配慮した。

次に、本講義の全体の流れについて説明する。初回の授業では、プレゼンテーション活動において必要となるコミュニケーションへの意識を高めるため、英語で質問をして相手のプロフィールを集める「Find someone who～」のアクティビティを行った。学生同士の会話を促し、授業への積極的参加の必要性を意識化した後、プレゼンテーションの必要性や効果的なプレゼンテーションとはどのようなものか等についてペアでの話し合いを課した。第2回目の授業では日本語プレゼンテーションで取り扱いたい章別にグループを決定し、グループ内で英語プレゼンテーション用の章を選択するよう指示した。また予習として、日本語プレゼンテーションで担当する章の精読を課した。第3回目の授業では、グループ内で訳読確認と段落ごとの要約、重要な箇所、着目点の設定を行い、着目点に関する情報収集を行う事を予習とした。第4回目の授業では、効果的なパワーポイントの作成方法(図や写真、箇条書きで簡潔に表現する事等)について指導を行い、その後グループ内でコンテ・シートの作成を行った。コンテ・シートとはプレゼンテーションで用いるスライドのコマ割りの計画表であり、これを作成することによってプレゼンテーションの全体の構成、流れを確認する事が出来る。最後に原稿作成を予習と課し、プレゼンテーション実施前に、言語教育センター1階のメディア学習室内にあるグループ学習室においてリハーサルを行うよう指導し、第5回目から第9回目にかけて日本語プレゼンテーションを実施した。実施前には、第2回目に提出を指示しておいた担当章の全訳を確認して各グループに返却した。

日本語プレゼンテーション実施回(第5回目から第9回目)において、英語プレゼンテーション準備のための時間を設けた。この時学生は、第2回目から第4回目で確認したプレゼンテーション準備手順を基に、英語プレゼンテーションの準備に取り組んだ。理想的な英語プレゼンテーションとはどのようなものかを提示するため、動画を用いて指導を行った。第10回目から第13回目は英語によるプレゼンテーションを実施し、プレゼンテーショ

の様子をビデオに録画した。プレゼンテーション終了後、発表者が客観的に自己のプレゼンテーションを評価できるように、録画した動画を、プロジェクターを使用して再生した。第14回目は予備日と設定し、第15回目にテストを実施した。

次に本講義の1コマの流れを説明する。まず、第2回目から第4回目の授業において、上記で示したプレゼンテーション準備の前に、テキストの重要単語リストから単語テストを行い、第1章の英文の精読をクラス全体で行った。第5回目以降は、単語テスト、担当グループによるプレゼンテーション、相互評価、グループによるディスカッション及びライティング活動を行った。プレゼンテーション発表終了後にはディスカッションを行う事で、発表を聞くだけでなく、聞いた内容について思考し、意見を共有するよう促した。

## 2.2. プレゼンテーションの評価方法

各プレゼンテーションの評価は、発表態度（視線、声の大きさ、話す速さ、姿勢）、本論の内容（冒頭、序論、本論の内容、結論）、その他（資料の使い方、話の流れ）、全体の評価の項目を設け、聴衆である学生が評価を行った（尚、発表後、同じ評価シートを用いて発表者も自己評価を行った）。学生同士で相互に評価することにより、聞く能力の向上と同時に自己のプレゼンテーションの参考にすることを目的とした。また Hovane (2009) が指摘するように、学生同士の相互評価と同様に重要性が高いのが、教員による評価及びフィードバックである。プレゼンテーションの授業では学生だけでなく教員の参加も重要な要因であることが Hovane (2009) により指摘されており、当該授業においても、各プレゼンテーション後、良い点と改善点についての教員によるフィードバックを発表した。

## 3. アンケート調査結果と改善点の分析

### 3.1. アンケート調査結果

第14回目の講義において、学生に対してプレゼンテーション授業に関するアンケートを行った。本調査に参加したのは、クラスの全32名中欠席した学生4名を除く28名であった。アンケートはプレゼンテーションの実践に関するコメントを記入する記述項目を中心としたものである。まず、「授業で行ったプレゼンテーションが良い経験となったか」という質問に対し、28名全員が「はい」を選択した。また「具体的にどのような点で良い経験になったのか」という質問に対する学生からのコメントを分析すると、主に4つのポイントが支持されていることがわかった。以下では、4つのポイントにA～Dのアルファベットを割り振り、それぞれのポイントについて概観する。なお、A～Dの4つのポイント以外の観点によるコメントは「E. その他」としてまとめた（学生の原文コメントは資料1に掲載）。

まず、「A. 人前で話す貴重な機会・体験となった点」と「B. グループワークの重要性を認識した点」を評価する意見が複数あった。大学の授業において人前で発言及び発表する機会が少ないと指摘する学生が多い点と、授業中に2度の発表を行った体験が、人前で話す貴重な体験になったと回答している学生が多かった点を考慮すると、大学における発信

型 (output) 教育の希少性が理解できると同時に、人前での発言及びグループ活動を実践的に学ぶ事が出来るプレゼンテーション授業の貴重性が考察できる。

さらに、パワーポイントや原稿の準備、工夫の仕方、効果的な話し方や姿勢を学んだ事、及び内容に関する知識を得た事、つまりプレゼンテーションに関する「C. スキルや知識の獲得」を評価する声が多く見られた。さらに、プレゼンテーション授業で学習した内容が「D. 将来的に役立つ可能性」を評価する声も少数ではあるが見ることが出来た。このような回答から、学生がプレゼンテーション能力の将来的必要性を意識している事が考察できる。つまり英語プレゼンテーション授業に対する関心や意識が、社会や大学だけでなく、学生の間にも少しずつ生じている事がわかる。このようなアンケート結果から、学生がプレゼンテーション活動の貴重性を認識している事は明らかである。

### 3.2. 改善点の分析

次に、評価シートのコメント欄に書かれたコメントを分析する。ここでは特に、プレゼンテーション実施直後に発表者、及び聴衆が考えた改善点について考察する。第5回目から第13回目に行われたプレゼンテーション計8回（日本語プレゼンテーション4回；英語プレゼンテーション4回）において、発表者、及び聴衆によって評価シートのコメント欄に書かれた改善点を分析すると、主に4つのポイントが支持されていることがわかった。以下では、4つのポイントにA～Dのアルファベットを割り振り、それぞれのポイントについて概観する。なお、A～Dの4つのポイント以外の観点によるコメントは「E. その他」としてまとめた（学生の原文コメントは資料2に掲載）。

まず、「A. 発表態度（視線、声の大きさ、原稿の読み方・話し方）」や「B. パワーポイント資料」など、プレゼンテーションにおける基礎的な項目への改善を指摘する声が多くみられた。これらの項目は「C. 準備」と関連性が高い項目である。原稿読みや話し方は準備段階で改善可能であり、これらの練習を十分に行う事によって視線の改善もある程度可能である（原稿を暗記すれば視線を上げる事も出来る）。パワーポイント資料の改善も同様に、図や写真、画像を増やすべきであるという指摘が多く、これらは全て準備段階で改善される問題である。

次に、「D. 説明能力」に関する指摘に注目したい。ここでは、「要点」をまとめ「簡潔」な説明の必要性を求める声が多く見られた。では要点がまとまっておらず、簡潔でない説明とはどのようなものかと言えば、「情報量が多すぎる」ものや「説明が長過ぎる」ような、聞き手を「飽き飽きさせる」、あるいは混乱させるものである。ここでの問題は、収集した情報を整理することなく、漠然と示している事である。このようなプレゼンテーションでは、聞き手に「要点」を伝える事ができないだけではなく、聞き手を混乱させてしまう。論理的に要点をまとめ、簡潔に説明する説明能力は、単に収集した情報をそのまま伝えるのではなく、重要だと思ふ点や着目点を抽出し、それらを論理的に整理する能力を必要とする。こうした情報整理能力や説明能力は、より高いプレゼンテーションを行う上で必要不可欠である。つまり、これらの育成こそが、より高いレベルのプレゼンテーション実践

に繋がると考えられる。

#### 4. おわりに

本実践報告では、リーディング教材を用いたプレゼンテーション授業の概要と、日本語と英語のプレゼンテーションを実践した学生からの評価、及び評価シートから見た改善点について報告した。これらの考察から、今後の改善点が浮き彫りになった。

講義では、英語の文章を正しく、分析的に、そして批判的に読むことを目標に、理解した内容を日本語と英語の両言語で論理的に説明する力を養うため、プレゼンテーション活動を行ったが、ここで挙げた「論理的に説明する力」についてさらなる指導が必要である事が分かった。つまり準備段階における情報収集後の情報整理能力や、その情報を用いて考えた事、注目した内容について、自らの視点から論理的に説明するための説明能力を養うような指導が行われるべきであるという事である。具体的な指導としては、プレゼンテーション準備段階における指導を強化する必要がある。つまり、単に情報収集を課題とするだけでなく、収集した情報を自分の言葉で要約する活動や、自身の視点から原稿を作成する指導を行い、プレゼンテーションの実施以上に、その準備を充実させる必要がある。

単なる「体験」としてのプレゼンテーション授業ではなく、高いレベルのプレゼンテーション教育においては、これらの能力の育成こそが重要である。しかし情報整理能力や説明能力に特化したテキストも未だに少ない状況である(田村, 細田, 星, 野村, 2014)。故に、プレゼンテーション授業においてこれらの点を発展させるためには、テキストの充実、プレゼンテーション授業数の充実、そしてさらなる研究及び実践報告が必要であると考ええる。

#### 引用文献

- Hovane, M. (2009) . Teaching Presentation Skills for Communicative Purposes. *Kansai University Forum for Foreign Language Education* 8, 35-50, 関西大学 .
- Pavlik, Cheryl. (2014). *Burning Issues—Advanced Level*. 松柏社 .
- 上田孝子 (1998). 「大学英語教育にスピーチ、プレゼンテーションを取り入れる試み」『ことばの心理と学習』金星堂 .
- 田村朋子、細田業穂子、星久美子、野村佑子 (2014). 「大学英語プレゼンテーション教育を再考する：主要テキストに関する一考察」『立教大学ランゲージセンター紀要』31, 43-53.
- 仁科恭徳(2012). 「発信型英語教育を目指す教材開発の裏側：計量的観点から見た英語プレゼンテーション教材の妥当性と改善点の一考察」『立命館高等教育研究』12, 225-242.
- 仁科恭徳、桐村亮、吉村征洋 (2013). 「日本人英語学習者の自律学習方略に関する一考察：英・日プレゼンテーションの事前準備に関して」『明治学院大学教養教育センター紀要カルチュラル』7 (1), 97-111.
- 藤田玲子、山形亜子、竹中肇子 (2009). 「学生の意識変化に見る英語プレゼンテーション授業の有用性」『人文自然科学論集』128, 35-53, 東京経済大学人文自然科学研究会 .

## 付録

### 資料1：アンケート調査結果

以下では、それぞれのポイントについて、学生が書いたコメントを原文のまま掲載している。なお、一人の学生によるコメントが複数のポイントに関連している場合、重複して掲載されている場合もある。

#### A. 人前で話す貴重な機会、体験となった点

- ・ 人前で話す機会がなかなかないので貴重な体験になったと思う。
- ・ 人前で話すことに慣れることができた。
- ・ 人前で話すことに慣れた。
- ・ 人に物事をわかりやすく伝えることの大切さ。
- ・ 大勢の前で1人で発表すること。
- ・ 人前で話す機会を得られたこと。
- ・ 人前で話すことに少し慣れたと思います。1回目より2回目の方がうまく出来ました。
- ・ 人前で話すことの重要性が分かった。
- ・ 人前で話すのが苦手なので、いかに分かりやすくおもしろいと思ってもらえるかたくさん考えながら、プレゼンが出来ました。
- ・ 皆の前に立って自分の意見をスライドを使って伝える点。
- ・ 周りの人の目を見て説明する点。
- ・ 人前で話す。
- ・ 人前で話すこと。
- ・ 普段、英語でプレゼンする機会がないのでよかったです。自分で文章を考えたりする事もあまりないので。

#### B. グループワークの重要性を認識した点

- ・ 人前で話すと言う事より、班内で話をスムーズに進める練習になったと思います。
- ・ 自主的に学習しようと思ってもできないし、複数で考えを出して協力してスライド、原稿を作らなければならないところ。
- ・ 協力して行う点。
- ・ 班の人と協力して、プレゼンをしあげて、練習をした点。
- ・ プレゼン前の準備からみんなと協力する機会が増えたから。
- ・ グループで役割を分担し、統合してプレゼンを行うことができた点。
- ・ グループワークでの自分の役割など、プレゼンのために重要でした。
- ・ グループで協力すること。
- ・ グループ内の団結力につながった点。

### C. スキルや知識の獲得

- どんな風に言えば相手に伝わりやすいかを自分で考えてみました。順番や強調などの工夫をすることで、すごく分かりやすくなると分かりました。
- 要点だけをパワーポイントにまとめる点。
- プレゼンテーションの方法やすすめ方の難しさを実感できた。
- プレゼン能力…話し方や姿勢に気をつけてプレゼンを行う努力をしたりできたのでよい経験になったと思います。
- 自分の良い経験にもなったと思うし、他人のプレゼンを見て、ここが良い、真似したいと思ったり、ここが悪い、だから自分はこうしないようにしようと、考えたりできて次へつながる学習となった。
- 何事にも言えますが、準備をすることの大切さが分かりました。
- プレゼンテーションの内容を作っていくうちに新しい知識が得られること。
- 調べた内容が自分の知識になった点。

### D. 将来的に役立つ可能性

- これからプレゼンを行うときのいい練習になった。
- 社会に出たら必要になるので、そのときの準備などで。

### E. その他

- 自分自身が理解しているかわかる点。

## 資料2：評価シートに記載された改善点（改善点に関するコメントのみ原文のまま掲載）

### A. 発表態度（視線、声の大きさ、原稿の読み方・話し方）

#### 〈視線〉

- 原稿が難しく目線を上げることができなかった。
- もう少し目線が上を向くと良いと思いました。
- もう少し目線を向けて話せば良かったと思った。
- 下を向きすぎていると思う。
- もう少し暗記して発表すれば良かったなと思いました。
- 内容をおぼえて前を見ながら言えるようにしたかった。

#### 〈声の大きさ〉

- 声の大きさが小さい点。
- 日本語のプレゼンの時よりも緊張してしまい、下を向いている時間も長く、声も小さくなってしまいました。
- 練習のときはもっと声のでていたのもったいなと思った。
- だんだん声が小さくなって自信がなく聞こえるところがあった。
- 男子の声が小さくてあまり入ってこなかった。

#### 〈原稿の読み方・話し方〉

- スムーズに読めていない所がいくつかあったので、少し気になりました。
- 声の大きさは良かったけど、もう少しスムーズに読めたら良いと思います。
- すらすら言えていない点
- 英語が全然スムーズに読めなかったり、リハーサルをしてなかったのでスライドと合わない事があった。
- もう少し読みの練習をしっかりとって発表したいと思いました。
- もっと英語がスラスラ読めたら良かったかなと思った。
- もう少し暗記してプレゼンできたらもっと良かったと思う。
- 暗唱していればもっといいプレゼンが出来たと思います。
- もう少しスラスラ英語を話せるように練習するべきだった。
- 大事な部分をもっと強調して話せば良かった。
- 抑揚をつけて読むと聞き取りやすくなったと思う。
- もう少しゆっくり話してもいいのでは？

#### B. パワーポイント資料

- スライドをもっと分かりやすくしたらよかった。
- 難しい文字はスライドに表示するとよかった。
- スライドが多かったのもっとまとめても良かったと思う（特に文が多かった）。
- もっとスライドに絵が多く、字を少なくしたら見やすかったかなと思った。
- 流れがあまりスムーズでなかった。スライドの事前打ち合わせをもう少ししていたら良かったと思う。
- 画像をもっとあったらわかりやすいかと思った。
- 表やグラフがゴチャゴチャしていた。
- 資料が少ない。パワーポイントをもっと効果的に使ったらよかったと思う。
- スライドにもう少し画像を取り入れたら良かったかなと思います。

#### C. 準備

- 準備ができていなかった。
- 取りかかりが遅く、準備が行き届かなかったところがあった。
- もう少し練習に時間をついやすべきでした。
- 練習不足でした。
- 練習不足であった。
- 練習不足でした。
- 自分たちの練習が足りなくてぐだぐだしたことも多かった。
- 練習が足りなかったと思います。
- 事前の打ち合わせを十分にできていなかったように見えた。



- 準備不足のように見えました。
- もっと練習をすべきだった。

#### D. 説明能力

- 詳しい説明があつて、もう少しはぶいても良い所があつたんじゃないかなと思います。
- 詳しく説明していたが、情報が多すぎて何を言っているか分からなくなる箇所があつた。
- もう少しまとめた方が良かったと思いました。
- 情報量がすごく多かつた。
- DNAの話が少しくどかつたと思う。
- 少し長いと感じたので、英語のプレゼンは簡潔に楽しく伝えたいと思いました。
- 内容があまりまとまっていないような気がしました。
- 長い説明はさけるべきだと思った。聞き手のことも考えて説明すべきだった。
- 説明が長すぎて聞いている人を飽き飽きさせてしまったかなと思いました。もう少し要点をはっきりさせてスッキリしたプレゼンを作りたいと思います。
- ただ量が多かつたために、途中で頭に入るのが困難になりました。
- 少し話が長かつた。
- 少しむずかしい話だったのでもう少し簡単な単語、文で話す聞き手側としては良かったと思います。
- 分かり易い説明ができない箇所があつた。
- 話のつながりが見えない。
- あまり流れや話し方がスムーズでなく、多少気になりました。
- もう少し Reading 1 と Reading 2 を上手に繋げられたら良かったなと思いました。
- それぞれのテーマのつながりが曖昧で、結局、何が言いたかつたのか分からない。

#### E. その他

- 内容をどう深めるか、むずかしく、もう少し長めに内容を濃くしたらよかつた
- 資料集めに時間をかけすぎて本作業があたふたした

資料 3 : 授業で用いた評価シート

Student#:

Name:

Unit(                    )

発表態度	
視線	1 2 3 4
声の大きさ	1 2 3
話す速さ	1 2 3 4
姿勢	1 2 3 4

その他	
資料の使い方	1 2 3
話の流れ	1 2 3 4
全体の評価	A+    A    A-
	B+    B    B-
	C+    C    C-

本論の内容	
冒頭	1 2 3
序論	1 2 3 4
本論の内容	1 2 3 4
結論	1 2 3 4

コメント

資料 4 : 調査で用いたアンケート (関連部分のみ掲載)

① 授業で行ったプレゼンテーションは良い経験になったと思いますか？

はい    いいえ

② はいと答えた人は、具体的にどのような点において良い経験になったと思いますか？